

【現代語訳】

私も時の流れには逆らえないわよ。

でも、今でも、色香はないけど、粹な姐さんで通してるわ。

昔、あなたが垣根の外に通ってきた途端、直ぐわかったわ。

だって、鳴いていた鈴虫が泣き止むんだもの。鈴虫ってワタシ。

そしたら、誰かさんに言い寄られて、むりやり落とされた。

恥ずかしくて赤くなっただけど、段々に慣れましたー。

今は梅干しでも昔は梅の花だよ。

花が咲けば、色んな鶯が飛んで来て、私の枝に乗ってきたものよ。

あの頃は十七をごまかして、二十歳になったと言ってたけど、

何にも出来なかった、わたし。今じゃ反対に、

四十になってましえん！ って、ごまかすの。

ま、愚痴を言っても仕方がないけど、柳橋の袂たもとで

夜のホタルと光っていた私。何であなたに振られたのかしら。

令和五年九月十五日（敬老の日に）

大中臣正比呂 拙訳